



連携事例25

R5.8 更新

# 産×学×官 SDGs 共同プロジェクト

～地域の高校生のアイデアで地域創生を目指す～



## ■協働パートナーの種別

NPO	企業	行政	教育	地縁
-----	----	----	----	----

## ■事業運営団体

- ・一般社団法人 MIRAIKOMINKA for School

## ■協働パートナー

- ・佐倉市 ・船橋市 ・千葉市
  - ・千葉県立佐倉高等学校・千葉県立佐倉東高等学校
  - ・新渡戸文化学園高等学校・船橋市立船橋高等学校
  - ・千葉県立生浜高等学校・千葉県立千葉聾学校
  - ・株式会社千葉ジェッツふなばし・株式会社テスク
  - ・株式会社ジー・ピー・アイ・株式会社オカムライズ
  - ・株式会社パシフィックプロジェクト・株式会社やます
  - ・イオンタウン株式会社・イオンモール株式会社
  - ・一般社団法人 ブランディングデザイン協会
  - ・千葉工業大学・JA 千葉東葛・株式会社オカムラホーム
- 計 20 団体

## ■事業費

150 万円

## ■資金調達手段

協働パートナーからの寄附



プロジェクトの成果発表会を開催した際の記念撮影の様子

## 事業概要

一般社団法人 MIRAI KOMINKA for School は学生や子どもたちが主体となって、SDGs について 気づき・考え・行動することが出来るように地域の大人たちがサポートする組織です。子どもたちが大人になった時の環境について、今から自分事として捉え「一人ひとりのアクションが未来を変えられる」ということを学び、アクションを起こすことを目的としています。

## 協働までの経緯

現在国際的・社会的な動きとして、様々な企業・団体が SDGs の目標達成に向けて活動を行っています。しかし「何から行動すべきかわからない」など具体的な活動への動きが不活発な一面もあります。当団体はその受け皿として準備し、地域の企業・団体に応援(後援)という形から参画してもらい、一企業では成しえない、産学官が連携した地域活性・地方創生を目指していきます。

## 主な事業内容(年間スケジュール等)

- ①キックオフ式 地域の高校生・行政・企業・飲食店が一同に揃い、初となる顔合わせを行い、行政から地域について歴史や文化、抱えている農業等の地域課題を学びます。(毎年6月頃)
  - ②中間発表会 学生はチームに分かれて地域課題を解決するきっかけとしてストーリーを込めた SDGs フードを飲食店と共に開発します。その試作段階の発表会を行います。(毎年7月下旬頃)
  - ③販売会 試作を重ね出来上がったフードの販売会を開催します。販売会の翌日からは飲食店舗での販売もスタートします。(毎年10月に開催される千葉ジェッツふなばしホーム開幕戦にて販売会実施)
  - ④成果発表会 出来上がった SDGs フードを地域の方々にプレゼンテーションを行います。自分たちの想いをたくさんの方に広めるべく、地域のイベントや催事にも出店します。(毎年11月～2月頃)
  - ⑤寄付式 販売活動で得た収益金を高校生たちが考えた団体へ寄付します。(毎年3月頃)
- ※上記の他、随時、Instagram 等の SNS で活動報告をしております。

## 📍 主な協働パートナーとの役割分担

【NPO】一般社団法人 MIRAI KOMINKA for School  
【企業】株式会社オカムラホーム  
高校生がアクションをおこすフィールドを提供  
【行政】佐倉市・千葉市・船橋市  
高校生へ地域の現状や農業の問題、地域の特産品について伝える。また、SDGs プロジェクトにおいて学生や協力店、農家をつなぐ役割を担っている。  
【企業】株式会社千葉ジェッツふなばし  
プロバスケットボールとして高校生に夢を与え、プロジェクトの広報、PR を担当する。  
【NPO】一般社団法人 ブランディングデザイン協会  
高校生による、開発したフードのプレゼンテーションやパッケージデザインを指導  
【企業】イオンタウン株式会社  
学生の成果発表をする場所や販売会場を提供  
【企業（飲食店）】  
株式会社ジー・ピー・アイ（ル・ジェルダン・デュ・ソレイユ）株式会社パシフィックプロジェクト（オリベート）株式会社テスク（カフェ シュクル）株式会社オカムライズ（入母屋珈琲）・株式会社やます・JA ちば東葛が学生が考案したスイーツをプロの目線で評価し、持続可能な商品として完成させ販売を行う。  
【学校】千葉県立佐倉高等学校、佐倉東高等学校、新渡戸文化学園高等学校、船橋市立船橋高等学校、千葉県立生浜高等学校・千葉県立千葉聳学校  
未来の担い手として地域について学び、地域の人々を巻き込みながら地域創生を目指す。  
【学校】千葉工業大学

高校生の学びやフィールド学習のサポート

## 📍 協働事業によって生まれた成果

連携団体にどのような成長がみられたか  
それぞれの団体が持っている強みを生かし、高校生をサポートしていく事で、企業や団体間で新たな価値が生まれ、単体では成し遂げられないプロジェクトとなった。  
・連携によりどのような相乗効果があったかなど  
テレビや新聞の取材が入り、産学官が連携した活動に多くの方に興味を持っていただく事ができ、飲食店舗では集客数がアップしました。その他の企業や団体では、地域貢献や SDGs に積極的に取り組んでいる企業として社内、社外へ発信することができ、イメージ向上、認知度アップにつながりました。

## 📍 今後力を入れていきたいこと

○力を入れていきたいこと 1

持続可能な活動としていくために、協働パートナーを増やしていく

○力を入れていきたいこと 2

高校生が考案した SDGs フードを持続可能な商品としていくため、通販での販売やふるさと納税の返礼品としての商品開発を目指していく



(試作したスイーツについての打合せの様子)



(学生フィールドワークの様子)

## ♡ コラボのコツ!!

★コツ1 産×官×学で広がる、地域のつながり

★コツ2 地域の魅力を再発見

★コツ3 高校生のパワーで地域を巻き込む

SDGs を学ぶということは、持続可能な世界のために、何が必要なのか、何が課題となっているのかを学び、そのために自分たちに何ができるのかを考えるということ。それを自分たちの身近な地域にあてはめて、地域のことを知って、その課題の解決を図っていくことで、地域の魅力を再発見し広め、地域創生に寄与していく。地域課題を抱える一次産業の生産者や関係者などに高校生がインタビューや視察を行います。地域が抱える問題を解決して行くためには地域の人も一緒に巻き込んで行かなければなりません。高校生のパワーやアイデアが地域創生につながると考えています。

## 協働事例プロフィール

【活動開始年】 2021年4月

【活動のPR手法】HP: <https://www.miraikominka-forschool.com>

Instagram: <https://www.instagram.com/miraikominka4sch/>

【この事業で活用した補助金】 なし

【表彰歴・マスコミ掲載歴等】

■新聞 千葉日報 (2021年11月・2022年3月, 朝日新聞 (2022年4月), 東京新聞 (2022年4月)

■テレビ 千葉テレビ モーニングコンパス (2022年11月), ケーブルネット296 (2022年11月・12月・1月)

日本テレビ oha!4 (2022年5月), NHK 総合テレビジョン 首都圏ネットワーク (2023年10月),

ちばテレビ ウィークリー千葉県 (2023年3月)

【問い合わせ先】 担当者: 白鳥 電話番号: 047-409-1551

メールアドレス: m-shiratori@okamura-home.co.jp